

株式会社アドバンテスト
会社説明会

2009年10月28日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

2009年度 第2四半期 決算報告

業績の概要

ADVANTEST.

(単位: 億円)

	2009年度				
	1Q	2Q			
		7月発表の 予想	実績	前期比 (%)	予想との差異
受注高	116	100	144	+23.8	+44
売上高	76	100	112	+46.6	+12
売上原価	33	-	54	+58.1	-
売上総利益	43	-	58	+37.4	-
営業利益	-45	-37	-35	-	+2
営業外収支	8	-	8	+1.1	-
税引前純利益	-37	-32	-27	-	+5
当期純利益	-38	-33	-33	-	0
受注残	98	98	131	+33.1	+33

3

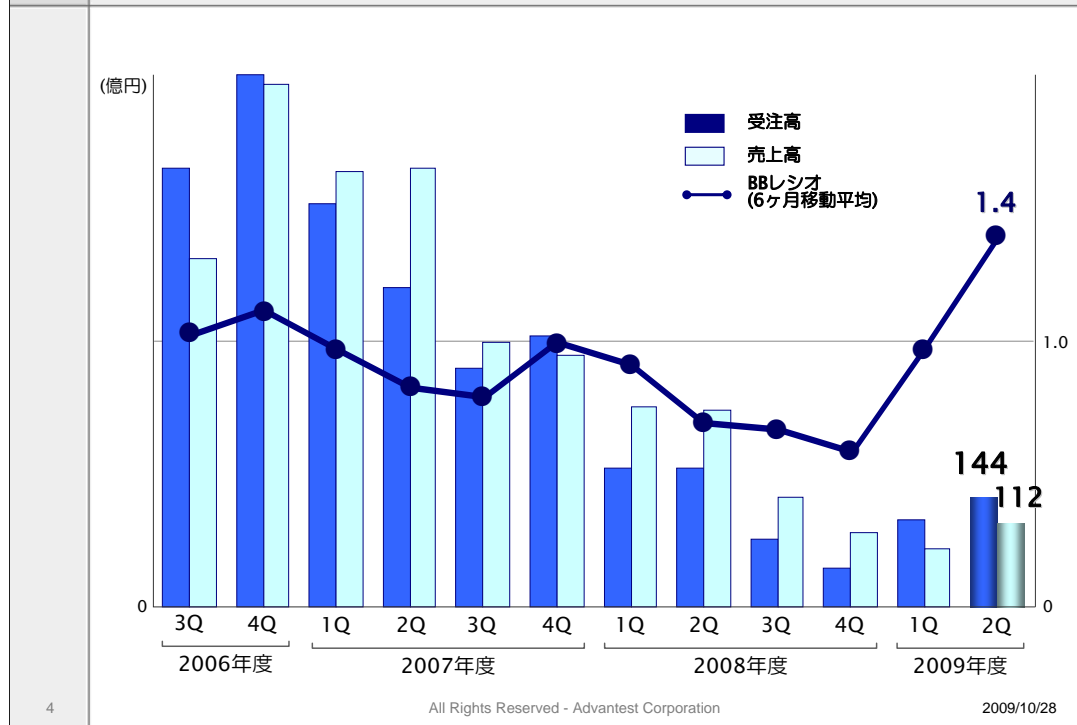
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/10/28

○ 当第2四半期の業績概要

- ・ 受注高 144億円
7月発表の予想に比べ44億円増。
- ・ 売上高 112億円
7月発表の予想に比べ12億円増。
- ・ 受注残 131億円
- ・ 営業利益 前期比および予想比ともに改善したものの、
35億円の赤字。
- ・ なお、通期の業績予想については、
第3四半期以降の見通しが不透明なため、
開示を差し控えた。見通しがつき次第、開示する予定。

受注高と売上高の推移

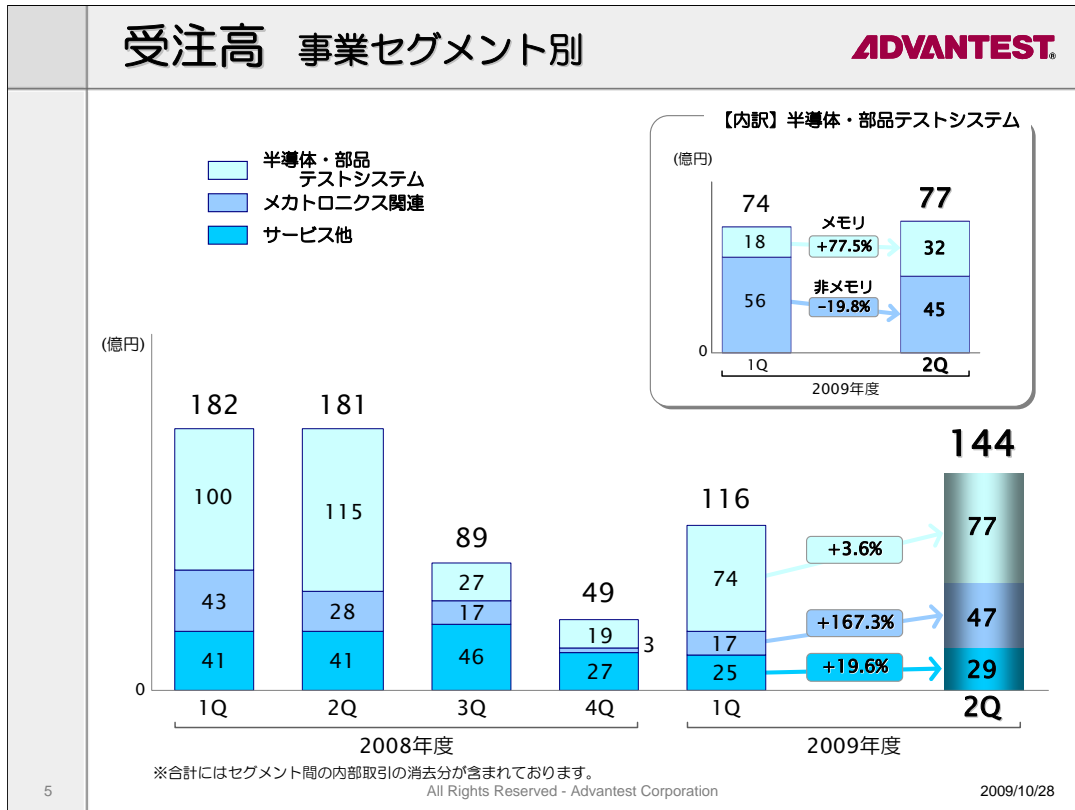


○ 過去3年間の受注高と売上高のトレンド

- ・ 受注高は、2008年度の第4四半期を底に、回復を示している。
- ・ 当第2四半期のBBレシオは1を上回った。

受注高 事業セグメント別

ADVANTEST.



○ 事業セグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 77億円
- ・ 内訳

<メモリ>

前期比 約78%増の32億円

DDR3後工程向けテストが順調に推移。

<非メモリ>

前期比 約20%減の45億円

全体では若干減少したものの、LCDドライバIC向けテストが増加。

○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比 約2.7倍 47億円
- ・ 増加要因 ①メモリ・ハンドラ
DRAMの増産

②非メモリ・ハンドラ

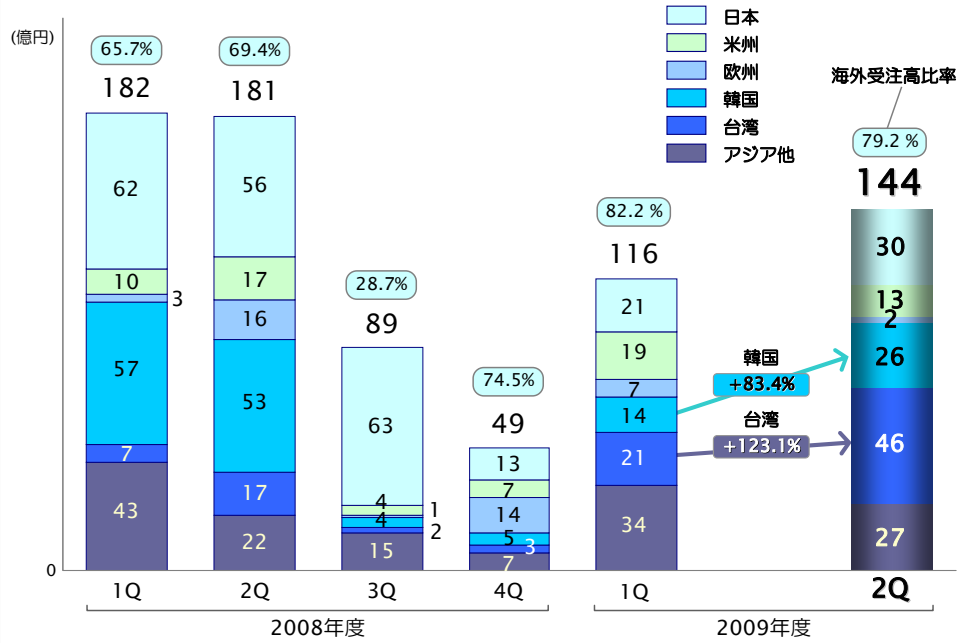
米国で大手顧客獲得

○ サービス他

- ・ 前期比 約20%増 29億円
- ・ 増加要因

テスト稼働率の上昇で修理・保守・移設が増加。

受注高 地域別



6

All Rights Reserved - Advantest Corporation

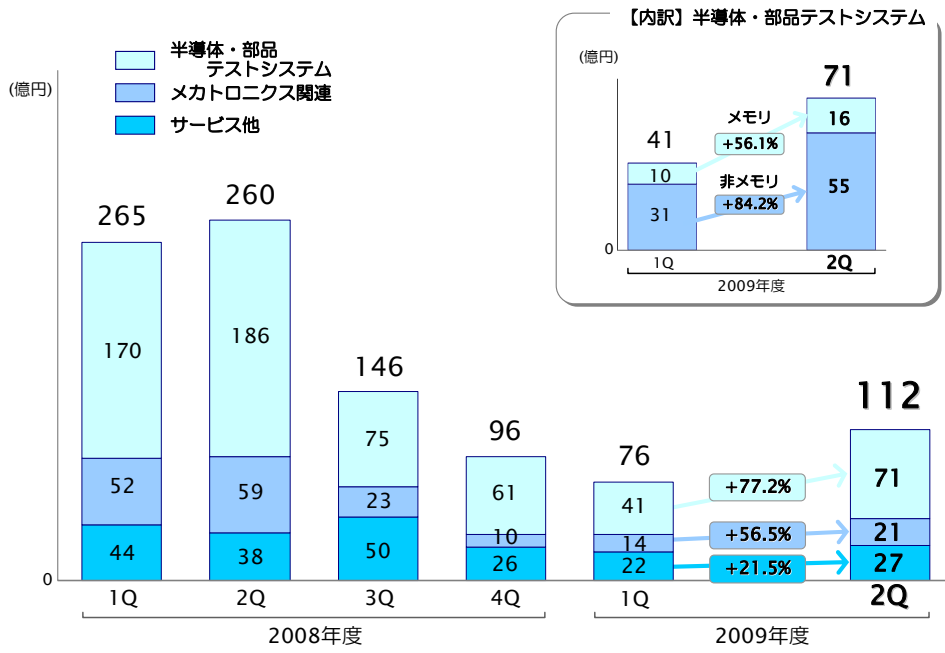
2009/10/28

○ 地域別受注高

○ 台湾と韓国が大幅に伸びた。

売上高 事業セグメント別

ADVANTEST.



※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれております。

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/10/28

○ 事業セグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

・ 前期比 約77%増 71億円

・ 増加要因

①非メモリテスト

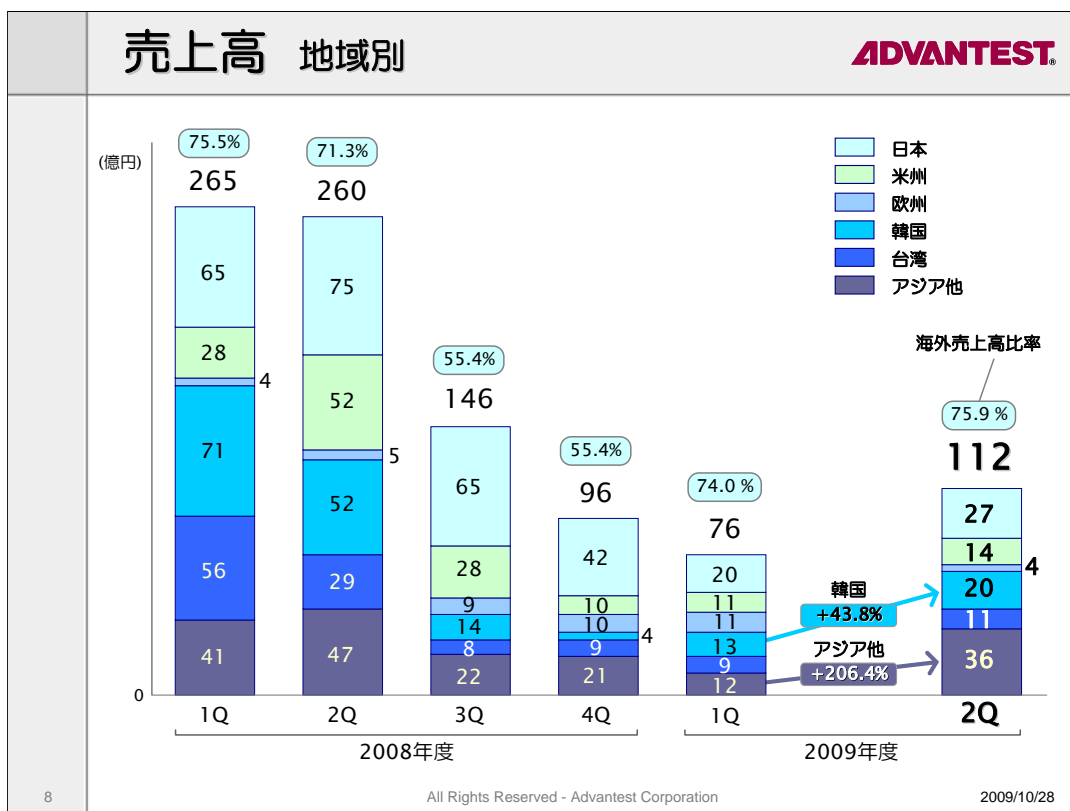
前期比 約84%増 55億円

MPU向けにT2000のデジタル・モジュールの出荷増

②メモリテスト

前期比 約56%増 16億円

DDR3後工程向けテストの出荷増

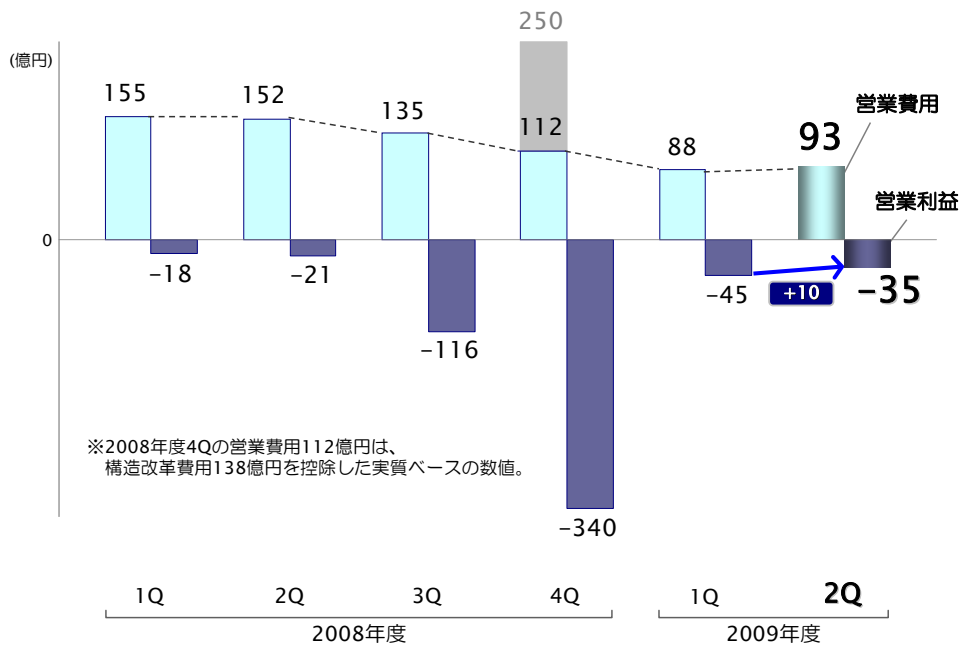


○ 地域別売上高

○ 韓国およびアジア他で伸びた。

営業費用 および 営業利益

ADVANTEST.

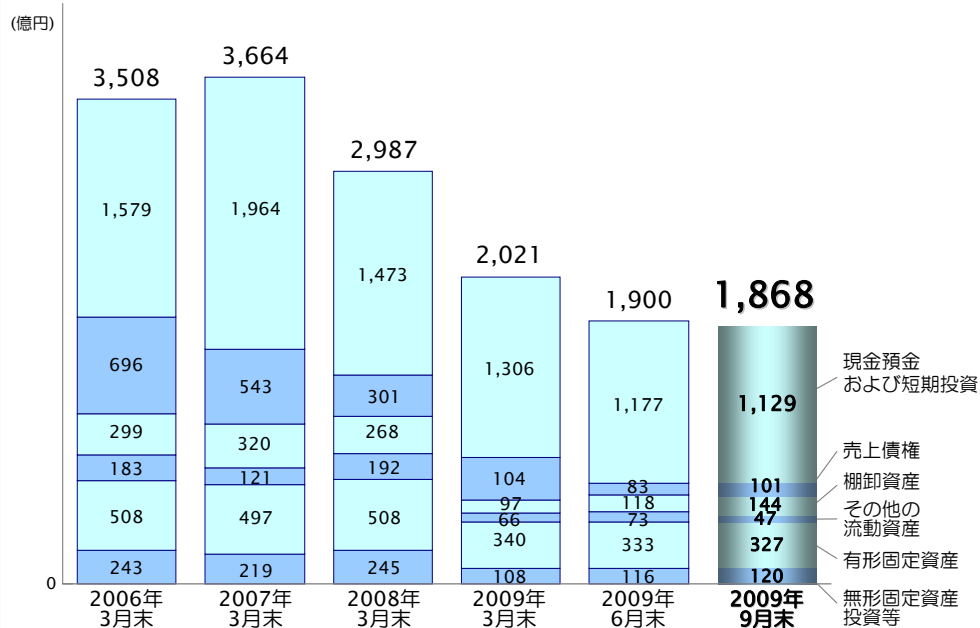


○ 当第2四半期の営業費用および営業利益

- ・ 売上高の回復に伴う引当金の増加などにより、営業費用は前期比 5億円増加したが、低水準を維持。
- ・ 営業損失は前期比で 10億円の改善。

バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST.



10

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/10/28

○ 2009年9月末現在のバランス・シート（資産の部）

- ・ 総資産

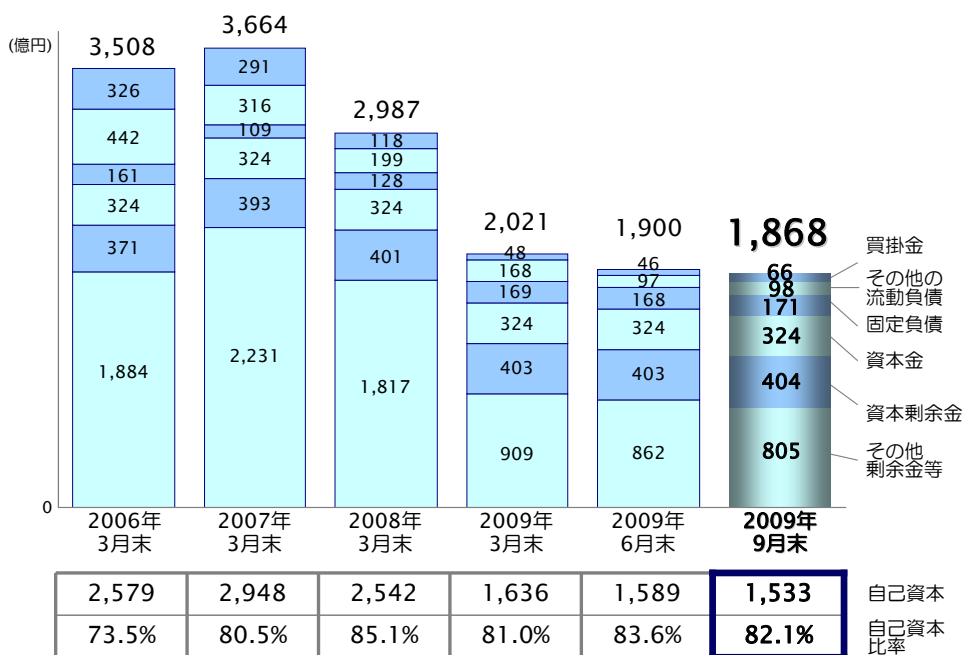
前期末比 32億円減 1,868億円

- ・ 現金預金および短期投資

前期末比 48億円減 1,129億円

バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST.



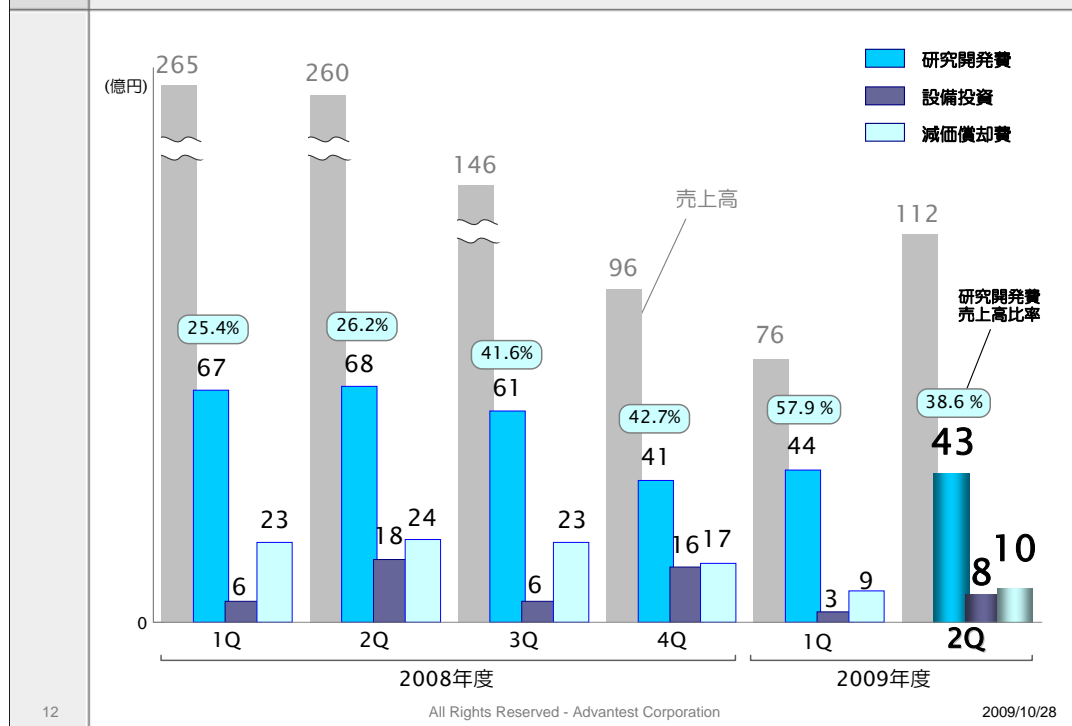
○ 2009年9月末現在のバランス・シート（負債・資本の部）

- ・ 自己資本
1,533億円

- ・ 自己資本比率
82.1%

研究開発費／設備投資／減価償却費

ADVANTEST.

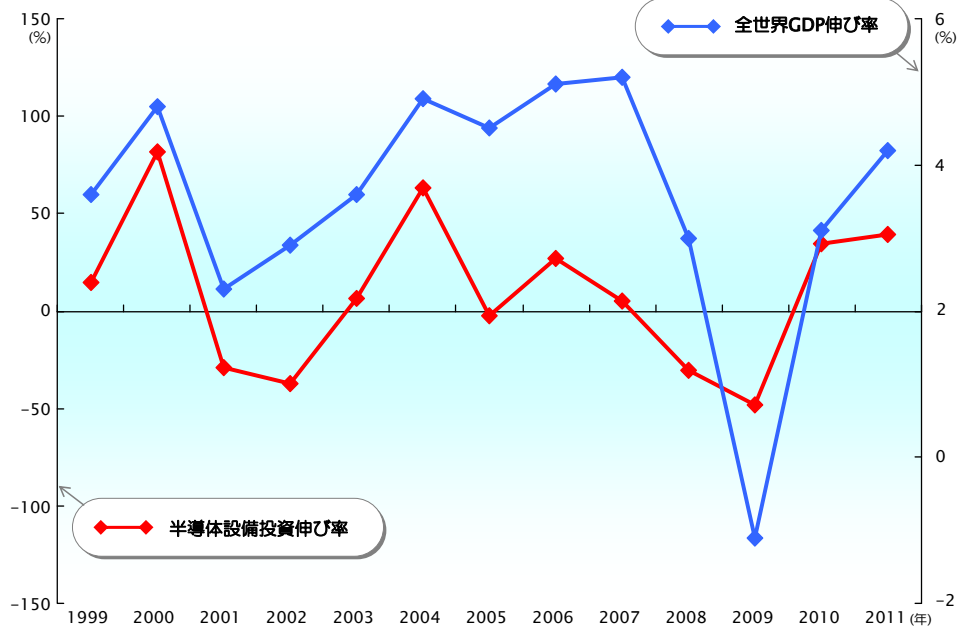


○ ビジネス環境が厳しい状況にある中、
研究開発費は、前期並みの43億円を維持。

ビジネスの状況

半導体の設備投資に明るい兆し
 ～半導体の成長率はGDP成長率にほぼ連動～

ADVANTEST.



14

All Rights Reserved - Advantest Corporation

[Source: IMF, Gartner]

2009/10/28

○ 足元の状況：

半導体の設備投資に明るい兆しが出始めている

○ 市場における明るい兆し

・ <グラフ青線>

IMF（国際通貨基金）10月1日発表

世界全体のGDP（国内総生産）成長率の見通し

2010年 +3.1%

2011年 +4.2%

・ <グラフ赤線>

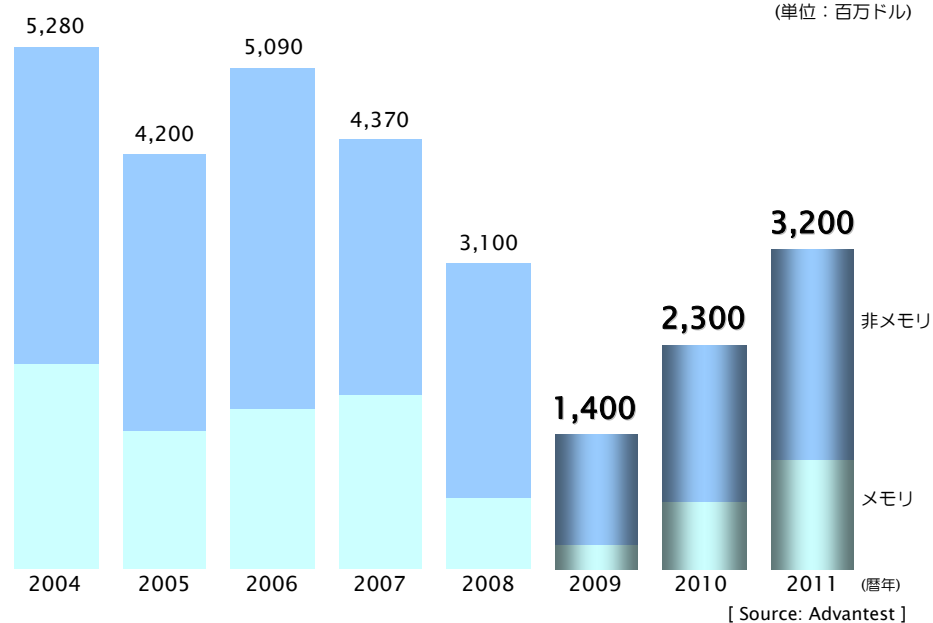
半導体の設備投資の成長率は、

世界のGDP成長率との相関が認められ、

テスト需要拡大に期待が持てる

半導体テスタ 市場規模予想

ADVANTEST.



15

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/10/28

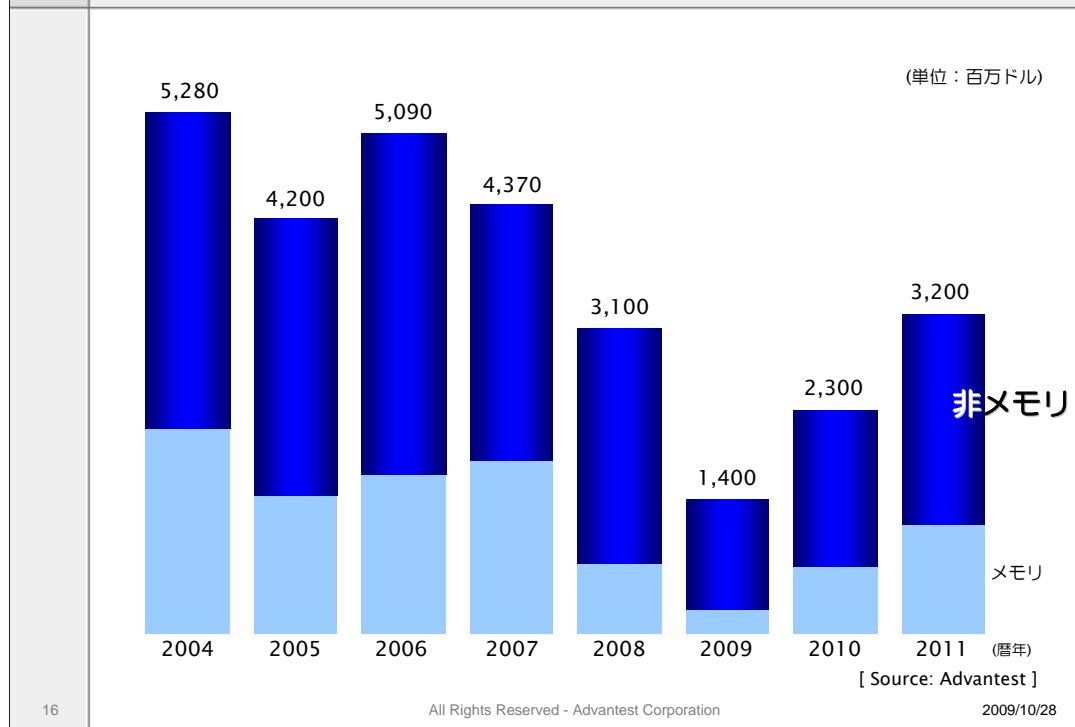
○ 2009年以降の半導体テスタ市場に対する当社の見方

- ・ 2009年は 約14億ドルと、今年始めの想定よりさらに規模が縮小すると予想。
(要因)
 - ・ 新興国市場でのデジタル家電特需などにより、半導体メーカーの設備稼働率は上昇。
しかし、投資の先延ばしなど、新規設備投資には慎重。

- ・ 2010年以降は回復
2011年には 約32億ドルと、2008年規模に達すると予想。
(理由)
 - ①企業向けパソコン需要増加。
企業の業績回復に伴い、これまで延伸、抑制されていたIT投資が回復。
 - ②個人向け半導体最終製品の需要増加
新OS搭載パソコンや、モバイル機器、LED搭載液晶テレビ、ハイブリッド車、家電など、新アプリケーションの普及、拡大。
 - ③半導体の増産および次世代半導体に向けたテスタ投資増加に期待。

非メモリ・テスト 売上拡大戦略

ADVANTEST.



○ 売上拡大戦略として

まず注力したいのは、非メモリ・テスト市場。

○ 非メモリ・テスト市場は、

- ・メモリ・テスト市場よりも安定的で規模が大きい。
- ・マーケット・シェア30%への拡大を目指す。

○ 2009年4月に、営業体制を変更。

- ・ファブレス企業とファウンドリー企業のように、
国境を跨いで連携を図る顧客のニーズに
迅速に対応すべく、
「地域別」と「アカウント別」のマトリックス型の
マネジメント方式とした。
- ・新たなビジネスを獲得するなど、成果が出始めている。

T2000 ラインアップ拡充

ADVANTEST



17

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/10/28

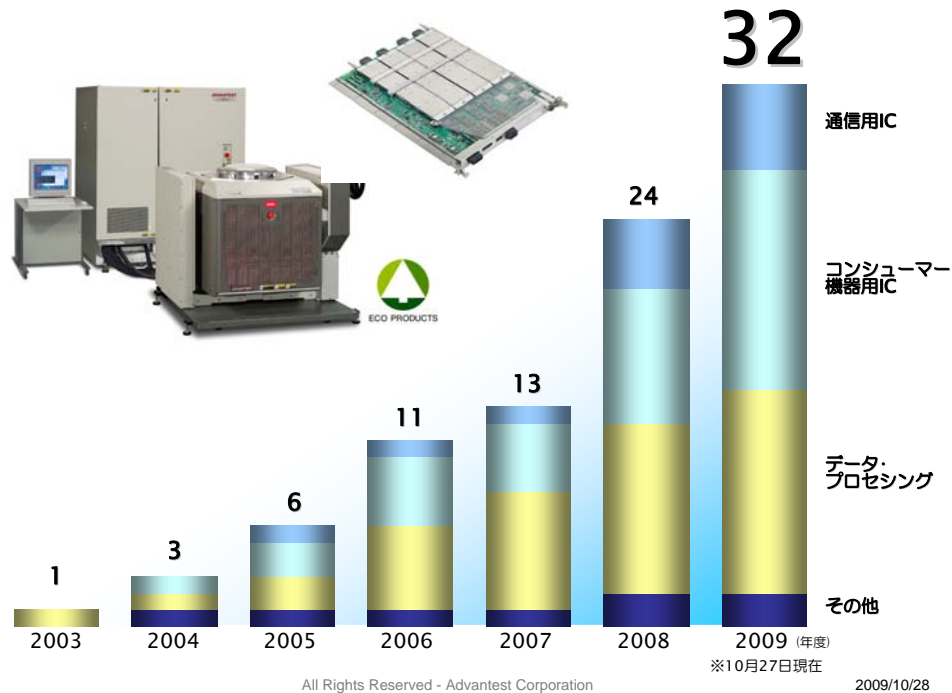
○ 製品では、

まず主力製品「T2000」を積極的に拡販していく。

- ・ デバイスの種類が多岐に渡る非メモリでは、MPU、MCU、SoC、RFICなど、それぞれに対応したテスト・ソリューションをすでにデリバリ済み。
- ・ 現在、車載用、CMOSセンサー用など、測定できるデバイスの種類をさらに増やすべく、モジュールのラインアップ充実を図っている。
- ・ また、当社はモジュールを多ピン化するための高密度実装技術を強みとしている。多ピン化することで、一度に試験できるデバイスの個数が多くなり、競合他社製品を上回るスループットを実現できる。

T2000ユーザ急増中

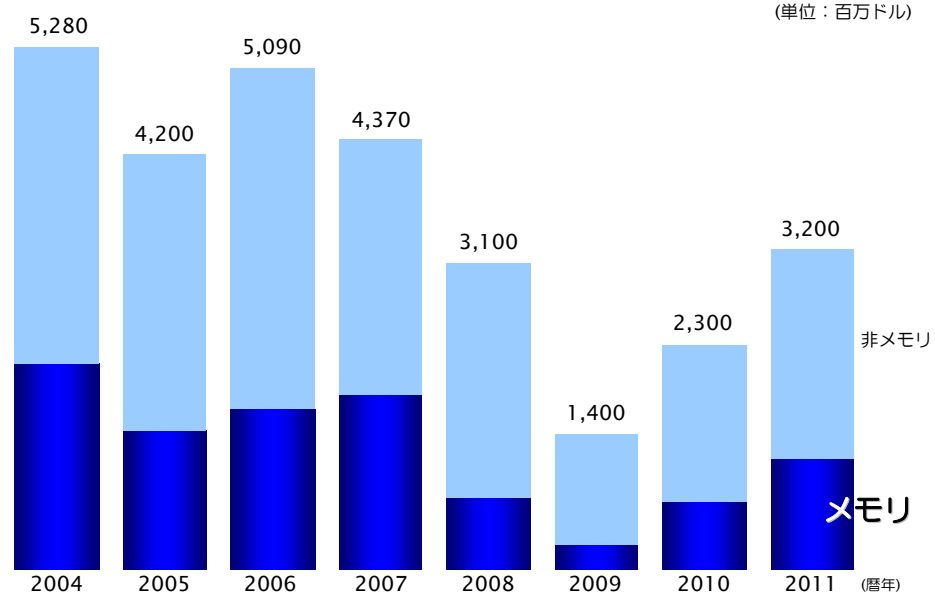
ADVANTEST.



- T2000の充実してきたラインアップや、コスト・パフォーマンスの高さが評価され、ユーザー数はここ2年間で急増。今後もユーザ数を拡大していく。
- また、T2000以外にも、
 - ・ LCDドライバIC向けテストの需要増に期待。
 - ・ LED搭載液晶テレビの普及や、新OS搭載パソコンで登場したタッチパネル液晶の普及、新興国市場での液晶テレビ拡大などにより、新たにLCDドライバICの需要増が期待できる。
 - ・ 市場で最もスループットの高い「T6373」をすでに市場に投入済み。売上拡大を図る。

メモリ・テスト 売上拡大戦略

ADVANTEST.



19

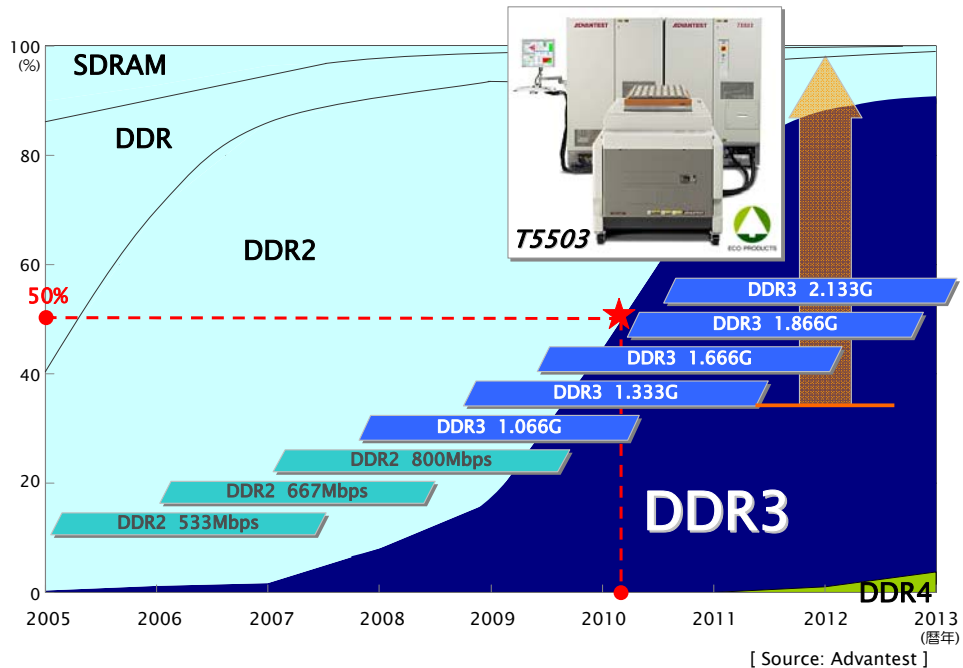
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2009/10/28

- 続いて、メモリ・テスト市場では
マーケット・シェア70%以上の確保を目指す。

DDR3向けテスト需要上向き

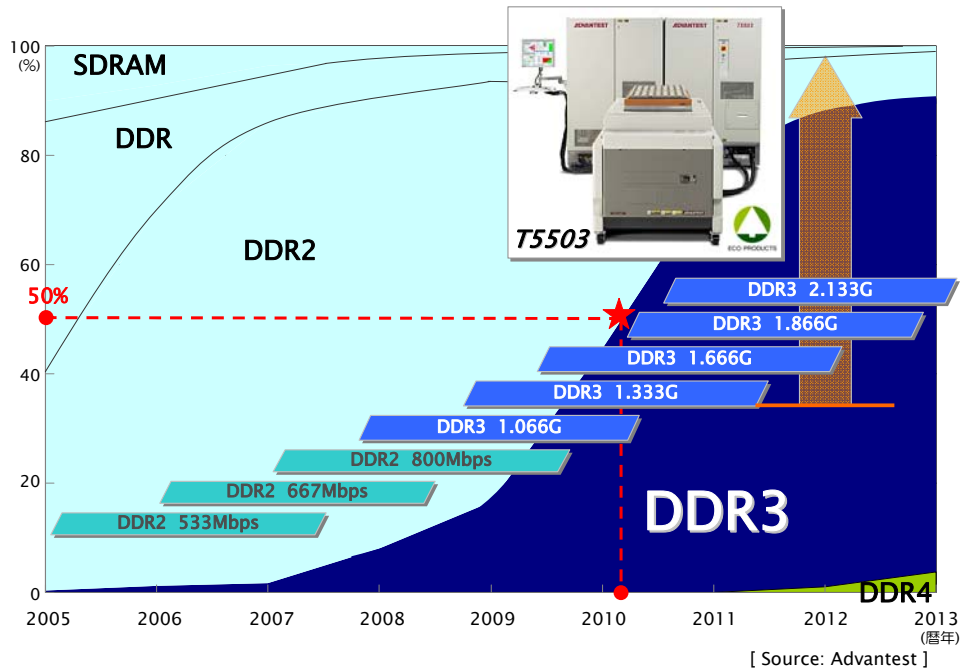
ADVANTEST.



- DRAMのアプリケーションでは、
DDR3搭載のパソコンに需要増加の期待
(理由)
 - ・ DDR3のみをサポートする新型MPUのパソコン搭載比率が拡大。
 - ・ ノート・パソコンやモバイル機器の普及と共に、低消費電力型のDDR3の搭載比率が高まる。
 - ・ DDR3は、2010年前半に、数量ベースで、全DRAMの約半分を占めると予想。
- 今後、主流となるデータ・レート1.3Gbpsを超えるDDR3に対し、量産ライン向けに投入されている高速テストは、当社の「T5503」のみ。
- さらに、来年以降の投資回復が見込まれる、DDR3の前工程向けには、業界最多 768個同時測定が可能な「T5385」をラインアップ済み。
- DDR3向けテスト市場で、確実にマーケット・シェアの維持、拡大を図る。

DDR3向けテスト需要上向き

ADVANTEST.



- また、フラッシュ・メモリ向けでは、
現在開発中の新コンセプト・テストや、
より高スループットな新製品の市場投入を予定している。

- 以上、ご説明したテスト本体以外にも、
- ・ デバイス・インタフェースなどの消耗品ビジネスを強化。
特に、独自に開発を続けてきたプローブカードを、
早期にラインアップへ加える。
 - ・ さらに、販売にこだわらず、
リースやレンタルなどのスキームも活用。

収益性の改善

- 1) 生産効率の向上と調達の最適化
- 2) 市場競争力の高い製品の開発
- 3) 経費抑制を継続

新規事業の開拓

複数のプロジェクトを推進中

- ここまでお話しした売上拡大以外にも、
今後、安定的成長を遂げるための施策を行う。
- 一つは、収益性の改善
 - ・ 生産効率のさらなる向上や調達の最適化。
 - ・ 市場競争力のある製品の開発強化。
 - ・ さらに、昨年以降強化してきた経費抑制を継続。
- 二つ目は、半導体テスト以外の新規事業の開拓。
 - ・ すでに製品化した
テラヘルツ・3Dイメージング・システム以外にも
複数のプロジェクトを推進中。

まずはやってみよう！
The Challenge to Change!

1000 Days

「7S」の推進

Speed	Simple	Steady	Skill	Slim	Surprise	Smile
-------	--------	--------	-------	------	----------	-------

ADVANTEST.

- 以上の活動を展開していくために、
7月1日より、新全社運動をスタート。
 - ・ 全社員が、7つの”S”をキーワードに、
一日一日を大切にすると共に、
中期的な視野を持って、施策に取り組んでいる。
現時点での登録テーマ件数は全社で430件。

- 以上の取り組みにより、
早期に黒字化を図りたいと考えている。

ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。